

# 「就任ご挨拶」

農林水産政策研究所長 別所 智博

去る10月1日付けで山下前所長の後任として農林水産政策研究所長を務めることとなりました。よろしくお願ひ申し上げます。

農林水産政策研究所は、農林水産政策に関する総合的な調査研究を行う組織として、2001年に設立されました。その母体は、終戦直後の1946年に設立された農業総合研究所であり、歴史と伝統を有する研究機関です。私自身は、1981年の農林水産省入省以来、ほぼ一貫して当研究所の研究成果を活用する側の立場にありました。今回、初めて研究組織で仕事をさせていただくことになりましたが、当研究所の円滑な組織運営に努め、微力ながら農林水産政策の発展に貢献できるよう尽力する所存です。

自己紹介に代えて、前職での仕事の内容を少し紹介させていただきます。異動前は、技術総括審議官として、農林水産関係の技術政策の取りまとめを担当しておりました。主な政策課題としては、ロボット技術やICT等の先端技術の活用、食品安全対策、原発事故対応などがありました。

ロボット技術、ICT等については、近年、農林水産業分野での活用に向けた技術開発が積極的に進められています。例えば、トラクターなどの農業機械では、GPS情報等を基にした誤差数センチの高精度自動運転が可能になっています。将来の無人化を想像させるかもしれませんが、現場で一番評価されているのは、この技術により、女性や新規参入者など農業機械に不慣れな方でも熟練者のような作業が可能となるということです。農村人口が減少する中での人材確保、生産力の維持・向上という視点で期待が大きいのです。

また、最近、福祉施設での利用が始まっているアシストスーツ（いわゆる介護ロボット）の農業版も実用化目前です。これにより、腰痛や高齢化でリタイアせざるを得ない方でも、引き続き農作業に従事

することが可能となります。

このように科学技術の進歩は、農業経営や農村社会のあり方にも大きな影響を与えます。実際、昭和40年代から急速に進んだ田植機やコンバインの普及と性能アップによって稲作の生産性は飛躍的に向上しました。結果として、100ヘクタールを超えるような大規模な法人経営や集落営農組織も全国で見られるようになりました。

他方、反対側から見てみると、「必要は、発明の母」といいますが、人材不足や人口減少などの社会的問題が技術開発を促しているともいえます。話が長くなりましたが、科学技術の発展（自然科学領域）と社会の構造変化（社会科学領域）は、決して無関係ではなく、お互いに双方向で影響し合っています。

当研究所は、社会科学系の調査研究を主な活動領域とする組織であり、その組織の長が技術政策の出身ということにややミスマッチの感もあるかと思いますが、このような視点を加味するという形で、本研究所の発展に貢献できるところもあるのではないかと考えています。

いうまでもなく農林水産政策研究所は、農林水産政策が国内外の社会情勢や国民の価値観等の変化に応じてより良い方向に進んでいくことをサポートすることを目的とした組織です。そのために、政策立案や意思決定の基礎となる情報を収集し、現状分析・将来予測等を行い、調査研究成果の形で情報提供することを主たる任務としています。また、行政組織の要請に応じ、緊急的な調査等を実施するなど、機動的な対応も必要とされています。

政策を立案し実現するための過程においては、的確な現状分析とそれに基づく方向性の検討、省内外の意思決定過程をクリアするための説明が必要となります。予算化、法制度化のためには、財政部局や



立法府への説明を求められますし、マスコミの方々の理解を得ることも重要です。何よりも、政策の対象となる現場の方々への説明責任を果たさなければなりません。これらのプロセスにおいては、できるだけ客観的な情報に基づくわかりやすい説明が求められます。

当研究所は、行政組織のそのような取組をサポートするため、主要国における農業政策の動向、6次産業化や食料アクセスなどの食料サプライチェーン、生物多様性や気候変動等の環境問題、農業・農村の構造変化等の課題について調査研究に取り組み、質の高い情報を継続的に提供しています。

最近では、本年3月に閣議決定した食料・農業・農村基本計画の策定過程において食料・農業・農村審議会に提出した「人口減少局面における食料消費の将来推計」等の研究成果は、計画の取りまとめにおいて重要な基礎資料となりました。また、農業と福祉の連携促進など、社会に先駆けて方向性を提案している分野もあります。

農林水産業を取り巻く環境が大きく変動する中で、当研究所が対象とすべき課題が多様化し、研究機関としての重要性も増しています。そのような変化に対応し、組織が活力を持って調査研究に取り組むことのできる環境の整備に努め、農林水産業及び農村の持続的発展につながることを目指して行きたいと思えます。

## 別所 智博 (べっしょ ともひろ)

農林水産政策研究所長 (Director General)

### 略歴：

|            |     |                          |
|------------|-----|--------------------------|
| 1958年      | 生まれ | (北海道出身)                  |
| 1981年      |     | 北海道大学農学部卒業               |
| 同年         |     | 農林水産省入省                  |
| 1988～1990年 |     | オーストラリア・クインズランド大学農学部(修士) |
| 1999～2002年 |     | 新潟県農林水産部地域農政推進課長         |
| 2002～2003年 |     | 生産局農産振興課土地利用型農業調整官       |
| 2003～2004年 | 〳   | 総務課農産調査官                 |
| 2004～2006年 | 〳   | 生産振興推進室長                 |
| 2006～2008年 |     | 消費・安全局植物防疫課長             |
| 2008～2010年 |     | 生産局農業環境対策課長              |
| 2010～2011年 | 〳   | 農業生産支援課長                 |
| 2011～2012年 | 〳   | 総務課長                     |
| 2012～2013年 |     | 大臣官房審議官(消費・安全局担当)        |
| 2013～2015年 |     | 大臣官房技術総括審議官              |
| 2015年      |     | 農林水産政策研究所長(現職)           |